

# 鳥取市 認知症施策推進計画

きぼうさちゃん



ふたこぶさん

鳥取市 認知症本人の声  
活動応援隊長

## 国の動向

令和5年6月成立、令和6年1月施行

### 共生社会の実現を推進するための認知症基本法

 (以下「基本法」という)

▶認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を推進する

令和6年12月策定

### 認知症施策推進基本計画

- ▶基本法に明記された「共生社会」の実現をめざす
- ▶認知症の本人の声を尊重し、「**新しい認知症観**※」に基づき施策を推進する

※「**新しい認知症観**」とは…

認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人ひとりが個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方

### 〈基本的な方向性〉



## 策定の趣旨

年齢にかかわらずだれもが認知症になる可能性があり、認知症になってからも自分らしい暮らしを続けていくためにはどうすればよいか、一人ひとりが考える時代が来ています。

この計画は、すべての市民が認知症を自分ごととしてとらえ、「新しい認知症観」に立ち、認知症の本人とともに、認知症になってからも自分らしく暮らし続けることができる鳥取市をめざして策定しました。

## 計画の目的

すべての市民が認知症の本人とともに、認知症になってからも希望をもって自分らしく暮らせる鳥取市を創ること

## 計画ができるまで

令和6年3月から「鳥取市認知症施策推進計画策定ワーキング※」を開催し、計画作成に向けて対話を重ねました。ワーキングでは、認知症の本人の暮らしや工夫をもとに、認知症になってからも自分らしい暮らしを継続するためにできることについて検討しました。

※ワーキングのグループメンバー構成：

認知症の本人、パートナー、介護保険サービス事業所、企業、医療機関、地区医師会、地域支え合い推進員、地域包括支援センター 認知症地域支援推進員など



### これまでに聴いた声を紹介します！



本計画には、これまでの本市の認知症施策・様々な取組の中で得られたみなさんの声や意見を反映しています。

(一部)

- 認知症になってからも、自分が経験したことを伝えていける場があるといいね。
- 認知症になってから新たにできる縁もあったので、大切にしたい。
- 集まりの場にただいるだけでも、認めてくれる雰囲気があるとより良い。
- 自分が知っている情報を周囲に広めていくことも大切！
- 認知症になってからも、自分の得意なことで頼られると嬉しい！

## 計画の概要

めざすすがた



認知症になってからも、自分らしく暮らし続けることができるまち



基本的な考え方

市民一人ひとりが「**新しい認知症観**」を理解し、実践する

だれもが基本的人権を  
もつ一人の人である

思いと力を持って  
挑戦し続ける

つながりをもち、  
地域の一員として役割を果たす

めざすすがたの実現に向けて、目標 1～4 を関連づけながら総合的に取組を進めていきます。

★目標 1: 認知症であることや、自分の思いを必要な人に伝えることができる

～取組内容～

「だれもが認知症になり得ること」「認知症になってからも自分らしく暮らすことができること」について、地域や職場などで話し合う機会を増やし、一人ひとりの理解を深めていきます。

★目標 2: 本人同士が出会い・つながり、経験や工夫を活かしながらやりたいことに挑戦し続けることができる

～取組内容～

認知症になってからもこれからの暮らしを前向きに考え、認知症の本人が主体的に挑戦する原動力となるピアサポート活動の充実を推進します。

★目標 3: 自分自身の暮らしのさまざまな場面でかかわる人とともに考え、暮らしやすい環境を創ることができる

～取組内容～

一足先に認知症とともに暮らしている本人の声を聴き、認知症の本人とともに対話と実践を重ねながら、認知症のバリアフリーの推進を行います。

★目標 4: 自分自身にとって前向きになれるような良い情報を入手し、心身の状態・住まいの場所にかかわらず自らの意思で決めることができる

～取組内容～

自分自身が望む暮らしについて考え、自分の思いを伝え、必要な人と共有し、認知症になってからも思いが尊重されるような仕組みを整備します。

## 計画の推進

本計画は、市民のみなさんとともに、以下のとおりさまざまな場面での対話を重ねながら取組を検討・実践していきます。

### 日頃から思いを伝え合う

「認知症になっても大丈夫」と思えるまちのあり方、希望をもって暮らすために必要なことなどについて、一人ひとりが暮らしの身近な場で考え、身近な人と思いを伝え合う

認知症になってからも、行きつけの店で買い物したいね！



(例) 思いを友人に伝える

### 声や思いを共有・考える

話し合った声や思いを、さまざまな場や事業の中で、暮らしにかかわる人と共有し、工夫を一緒に考える

どうすれば安心して買い物ができるかな？



(例) 友人や近所の人などと一緒に考える

### 各地域で具体的なアクションを考え、実践する

- 地域にかかわる人々が集まり、市民一人ひとりの思いを実現するための具体的なアクションをともに考え、実践する
- 地域の特性をより活かすために、認知症地域支援推進員が主体となって、地域にかかわる人々が立場を超えてともに考え、実践するためのコーディネートを行う



(例) ●●地域にかかわる人々



### 鳥取市認知症施策推進ワーキンググループ(仮称)の設置

認知症の本人を含めたさまざまな立場の人で構成される「鳥取市認知症施策推進ワーキンググループ(仮称)」を定期的に関催し、取組の共有、実施状況の確認・評価を行う



認知症の本人の声を聴き、一人ひとりが自分にできることを主体的に考えていくことが大切です。  
認知症になってからも自分らしく暮らし続けられる鳥取市をめざして、ともに考え、ともに取り組みましょう！

発行：鳥取市役所 福祉部 長寿社会課 鳥取市中央包括支援センター

〒680-8571 鳥取市幸町 71 番地(鳥取市役所本庁舎 1 階)

TEL:(0857)20-3457 FAX:(0857)20-3906